

円山川において大きな被害が発生した平成16年台風23号を契機に、円山川流域の住民を対象に防災意識の向上を目的とした学習会を平成23年から毎年行っています。

第一部は『防災教育に関わる取り組み紹介』、第二部は『学校・家庭・地域で取り組む防災教育～地域の次世代を担う子供たちを育むためにすべきこと～』というテーマで御講演していただきました。

当時の様子を知らない世代も増えてきている中で、地域の防災力向上に繋がるよう、今後もこのような取り組みを継続して行っていきます。

日時: 令和元年11月18日(月) 19:00～21:00

場所: 豊岡市民プラザ(豊岡市大手町4-5)

来場者数: 約270人

共催: 豊岡河川国道事務所・豊岡市・兵庫県但馬県民局

内容: 講演、防災パネル展示

開会挨拶



会場の様子

プログラム紹介

【開会挨拶】 豊岡市長 中貝 宗治

【第一部】 防災教育に関わる取り組み紹介

・国土交通省近畿地方整備局 総括防災調整官 栗津 誠一

過去の水害の特徴とそこからの教訓について、平成30年度7月豪雨や令和元年度台風19号を例に、必要な対応について講演していただきました。

・豊岡市立城崎小学校 教諭 田畑 孝弘

城崎小学校で実際に行った防災授業での子供たちの様子や、自助・共助の考え方といった授業内容について発表していただきました。

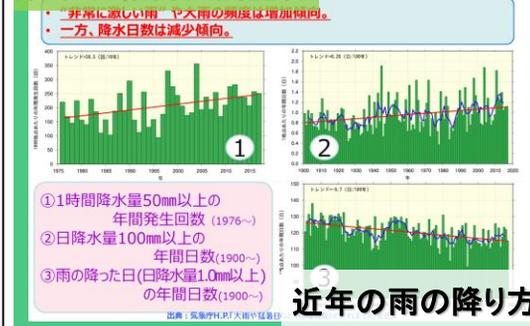
【第二部】 「学校・家庭・地域で取り組む防災教育」
～地域の次世代を担う子供たちを育むためにすべきこと～

・東京大学大学院特任教授 片田 敏孝

近年の災害を踏まえてこれからの防災求められること、社会や地域、住民に求められていることについて講演していただきました。

【閉会挨拶】 兵庫県但馬県民副局長 伊藤 豊

栗津 総括防災調整官



田畑 教諭

大雨で道路が水に浸かっています。深さはみんなのヒザより低いぐらいです。この道路を通って、安全に避難場所へ行くことができる？



防災授業での取組

片田 特任教授 講演内容

○近年の災害の振り返り

- ・令和元年台風19号、平成30年7月豪雨
- ・高齢者避難が難しい要因

○防災対策の方針転換

- ・行政主導の対策には限界がある
- ・住民の主体的な姿勢「自分の命を守る」
- ・行政サービスから行政サポートへ

○海外の防災をみる

- ・国ごとの国民性や社会システムによる防災への考え方の違い

○防災教育“育みの環境”

- ・逃げないことが常態化した環境では逃げられる子供は育たない
- ・「災害に備えることが当たり前」という意識を世代間で継承する



パネル展示

■アンケート

- ・堤防が整備された、この間の豪雨でも大丈夫だった、隣近所が避難していないからまだ大丈夫、そんな風に地域で安心し合っているはいけない。自分の命は自分で守る、地域の命は地域で守ることが大事だと思った。
- ・大人の意識が子供の育みに繋がる。その事を強く感じる事が出来た。育みの環境の中で、防災教育を考えることが大切だと感じた。

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局
豊岡河川国道事務所 調査課
〒668-0025 兵庫県豊岡市幸町10-3
TEL 0796-22-3126(代表)

